視報告第４号

令和７年１１月２８日

ふじみ野市議会
議長　加　藤　恵　一　様

生活・福祉常任委員会
委員長　川　畑　京　子

生活・福祉常任委員会視察調査報告書

令和５年第１回臨時会において閉会中の継続調査の申し出をした所管事務に係る特定事件の調査について、令和７年１１月５日及び６日の日程で大阪府池田市及び豊中市を視察し調査を実施したので下記のとおり報告します。

記

１　調査事項
(1)認知症「予防」発信事業について（大阪府池田市）
(2)図書館での一時保育事業について（大阪府豊中市）

２　出席委員

委員長	川畑京子	副委員長	前田広子
委員	金濵高顕	委員	坪田敏孝
委員	山田敏夫		

３　視察の概要

●大阪府池田市

池田市は大阪府の北部、都心（大阪・梅田）から約２０分の都市である。面積は２２．１４平方キロメートルで、広ぼうが、東西３．８２キロメートル、南北１０．２８キロメートルである。
北には五月山、南には大阪国際空港があり、南北に細長い地形をしている。古くから街道が交わる交通の要衝として栄え、北摂地域の中心地

として発展してきた。
近年においては、大阪国際空港をはじめ複数の幹線道路が整備され、交通の利便性が高い住宅都市としての姿がある。
また、五月山の緑や猪名川の清流に囲まれた自然豊かな地域である。
人口は、令和７年４月１日時点で、１０２，５６９人である。老年人口（６５歳以上）は２８，０７９人、高齢化率は２７．３７％、介護率は２０．２８％である。

１　認知症「予防」発信事業について

(1)認知症予防のための市の取組について

池田市では『「認知症になっても、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるまち」になるために』をスローガンに、認知症対策として、予防と共生に分け施策を展開している。（表１）

予防	共生
・教室 ①脳トレエクササイズ ・講座 ②認知症予防講座（介護予防講座）	・認知症の理解促進と見守り支えあう地域づくり ①認知症サポーターパートナー養成講座 ②オレンジフェスタ ③認知症ケアパスの普及啓発 ・認知症支援体制の強化 ④認知症初期集中支援チーム活動 ⑤徘徊高齢者探索システム事業 ⑥徘徊高齢者等ＳＯＳネットワーク事業 ⑦高齢者見守りシール事業 ⑧オレンジカフェ ⑨一体的支援プログラム

（表１）

(2)介護予防教室の脳トレエクササイズの概要

脳トレエクササイズは平成２４年の介護保険制度改正に伴い、運動、栄養、認知症予防に関する取組が必要となり実施することになったものである。運動と認知課題を組み合わせて行うことで、楽しく脳を活性化させて認知機能低下の予防を目的としている。
開催期間は４月から３月までの年度単位となり、全２クールで１ク

ール当たり３クラスの１８回、１クラスの定員を４０名として１クール当たり１２０名を対象としている。

具体的に実施している事項として、主に健康チェック、ストレッチ、ふくまる健康体操、認知機能測定、体力測定、講話、測定結果のフィードバックを１クールの中で行っている。

事業の特徴として、毎回健康日記チェックを行い、前日を想起しながら日記を書いてもらっている。また、シナプソロジーという、運動と認知を訓練する２つのことを同時に行う、左右で違う動きをするといった普段行うことが少ない動きを行って脳に適度な刺激を行うことも実施している。

予算は、３１，３１７，２００円で全額委託料として計上している。予防講座は、４９，５００円を医師等報奨金として計上している。

(3)大阪府の認知症「予防」発信事業を活用した内容について

ＭＣＩ（軽度認知障害）のリスクを血液から評価できる検査を活用し、市町村が行う認知症への予防効果が期待される運動教室などの事業について効果を検証し、より効果的な予防事業を府内市町村に普及し、発信する大阪府の事業に参加した。

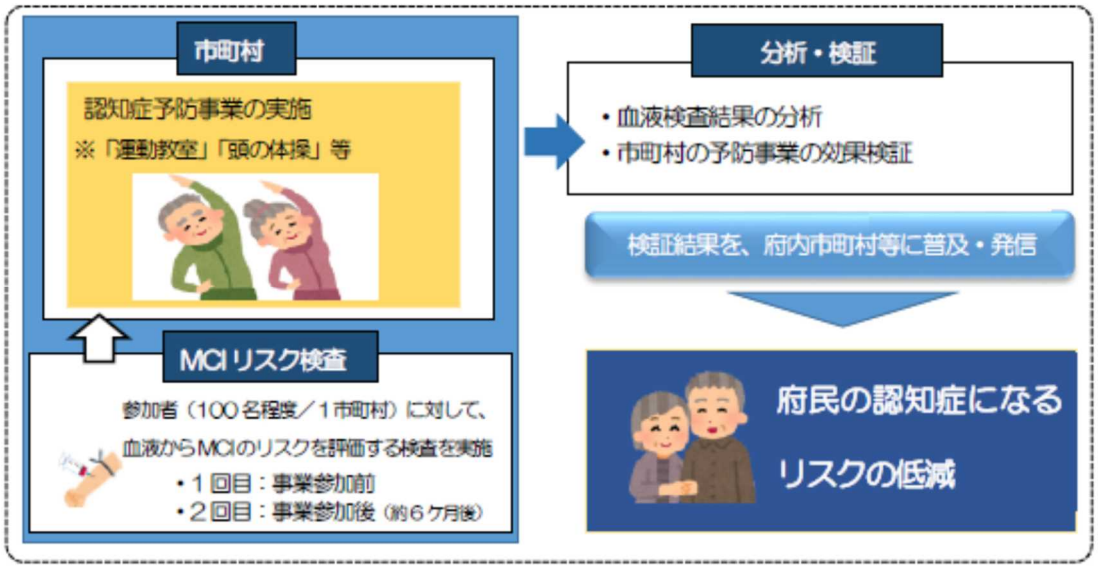
脳トレエクササイズ実施事業者からは効果があったとの報告を受けていたが、本当に効果があるのか疑問があり、異なった視点からの評価が可能な大阪府認知症「予防」発信事業を活用することとなった。

活用のスケジュールは表２のとおり。なおスケジュールの都合上前期の１クールの参加者のみが対象となった。

なお、市の費用負担及び参加者の費用負担は０円であり、参加者は１２０名中７９名となった。

日程	実施内容
4/2	広報４月号にて脳トレエクササイズ参加者募集
4/19	事業説明会・事前採血会
5/13-9/13	脳トレエクササイズ
9/20	事後採血会
10/11	結果説明会

（表２　スケジュール）

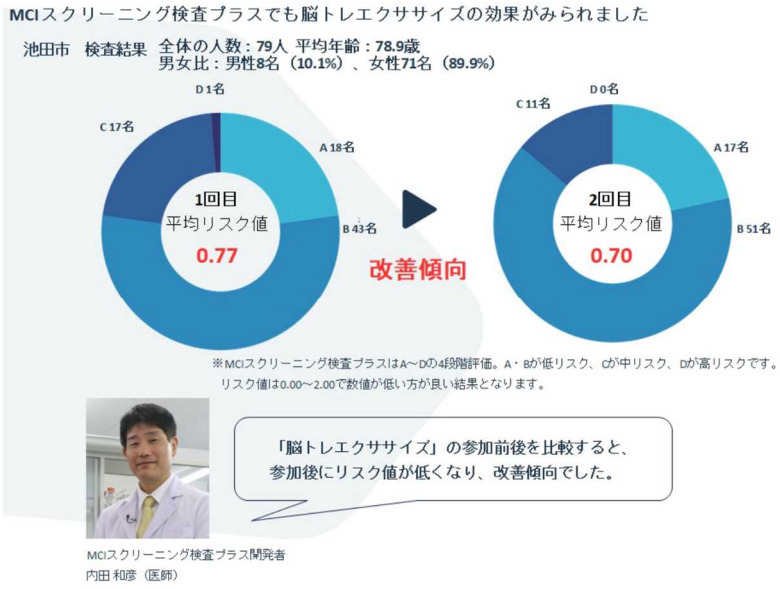


（事業イメージ　大阪府ＨＰより抜粋）

(4)実績と効果、利用者の声などについて

ＭＣＩスクリーニング検査プラスを行うことで、脳トレエクササイズの効果があるという結果が得られた。図①のリスク値が低くなるほど良い数値となり、０．７７というリスク値が、０．７０になり、改善傾向であったと代表されている医師が評価している。結果については、大阪府も公表している。

また、利用者の声として、この事業を通してこのような検査をすることで、血液検査から見た認知機能、栄養面がどのようになっているのか知り、改善に対する意欲が出るのではないかといった好意的な意見が多くあった。



（図①　説明資料抜粋）

(5)今後の課題などについて

課題として、脳トレエクササイズについては定員増加で対応してきたが、キャンセル待ちや希望の時間帯での参加が難しくなってきている。また、幅広い人（認知機能）が参加しており、担当者が機能に合わせて対応しているが１つのクラスで実施することが難しくなってきている。

委託事業者との関係では、委託先担当者の事業理解は進んでいるが、委託先事務方の事業理解が進んでいないと感じている。例えば、実際の運営の中にいる担当者は実際状況や対象者を見て事業を進めているが、契約など事務の関係者と進め方についてなどの情報の連携などが課題となっている。

参加者については、参加年齢層が高く（平均７９歳程度)、比較的若い年代の参加が少ない状況がある。今回の事業については普段参加していない人も幅広く興味を持ってもらうため大阪府の事業に参加したという目的もあった。

今後の事業展開については、今後も他市の事業を参考にしつつ、地域の課題から解決策を考え色々と試していきたいとの意見があった。

●大阪府豊中市

豊中市は、大阪府の中央部の北側、神崎川を隔て大阪市の北に位置し、東は吹田市、西は尼崎市、伊丹市、北は池田市、箕面市に接している。市域は東西６．０キロメートル、南北１０．３キロメートルで、面積は３６．６０平方キロメートルである。

地形は、北東の千里丘陵部、中央の豊中台地部、西・南の低地部からなり、千里丘陵は箕面山脈の断層崖下に半円形状に南に開き、海抜１３４メートルの新千里北町から大阪湾に向かってゆるく傾斜している。地質は古期洪積層で、大阪層群と呼ばれる主に海成砂れきと粘土の互層からできている。その西縁部に分布する標高５０メートルから２０メートルにゆるく傾斜した新期洪積層の段丘が豊中台地と呼ばれ、市街地の中心になっている。

人口は、昭和６２年（１９８７年）の４１７,１８２人を最高に、その後は減少傾向で、令和２年（２０２０年）の人口は４０１，５５８人となっている（令和２年１０月１日の国勢調査結果より)。なお、令和７年４月１日現在での人口は、４０５，４２３人となっている。年少人口（１５歳未満）は、５３，１８５人である。

１　図書館での一時保育事業について

(1)開設に至った背景や経緯について

豊中市には、８つの公共図書館がある。個人登録者数は約１２．８万人（登録率３２％）であり、蔵書冊数は約１００万冊である。小学校は公立３８校、私立１校が所在している。中学校は公立１６校、私立３校が所在している。全校に司書を配置し、配置されてから２０年経過している。

図書館で一時保育事業は、委託事業者から図書館に保育士を派遣し、子どもを預かることでその間に子育て中の大人が読書や自学など、自分時間を過ごすサポートを行うものである。

事業開始の背景や経緯として、図書館が生涯を通しての学び場となり、地域活動の活性化やまちづくりに資する役割を担うことを目指す中で、図書館を利用しづらい層へのサービスの拡充を検討していた。そこで、誰もが利用、滞在しやすい図書館を目指す中で、来館しにくい子育て世代向けの新たなサービスを考えた。また、一時保育の実施と同じ頃にスタートしたものとして、乳幼児スペースの拡充及び飲食スペースの設置がある。

（事業パンフレット）

(2)運営体制及び予算措置について

事業形態については、民間事業者への業務委託を行っている。今年度の委託業者は株式会社パソナフォスターである。委託料は図書館費として、１，１７６，１２０円を計上している。

委託内容は、保育士の派遣と保育の実施である。岡町図書館、千里図書館、野畑図書館の３館で月１回各館既存の集会室及びおはなしのへやなどを活用して実施している。その他実施内容は下表３のとおり。

	岡町図書館	千里図書館	野畑図書館
保育士人数	４名	３名	３名
勤務時間	３時間（９：４５～１２：４５）		
対象	７か月～未就学児		
定員	８～１６人 ※保育対象の年齢により、受け入れ人数が変更	６～１２人	６～１２人
申込方法	市の電子申込システム、図書館窓口		
保育料	５５０円（税込）		
注意事項	保護者は各図書館内及び施設内にいること		

（表３　説明資料より作成）

(3)実績と効果、利用者の声などについて

事業実績として３館合わせて、令和６年度は、申込み人数が３６０人、保育予定人数が２２３人、実績人数が１８６人である。令和７年度は４～９月の申込み人数が１７２人、保育予定人数が１２４人、実績人数が１０９人である。

岡町図書館と千里図書館についてはロケーションも良く、毎回抽選になるような状況である。また、令和５年度（２０２３年）から実施している事業であるが、リピーターが多いとの評価がある。リピーターについては子どもの年齢が上がることにより入れ替わりができているとの評価であった。

効果や利用者の意見として、子どもが生まれてから久しぶりにゆっくりと読書ができた、育休中に資格を取ろうと思い勉強のために利用した、久しぶりの１人の時間でゆっくり図書館を利用できたといった意見があった。また、要望として、子どもトイレやキャッシュレス決済の導入、実施回数を増やしてほしいといった声があった。トイレについては幼児用補助便座の設置などで対応し、キャッシュレスについても導入済みである。実施回数については、当初各館に保育士を２名配置し、最大８名を受け入れる体制であったが、保育士を増やすことにより定

員の枠を拡大して対応している。

事業の概要　利用状況

1945-2025 80th ANNIVERSARY

Q4-1 実績

R6年度　各回定員6～12人（保育士3名×3館）

令和6年度	合計	平均
申込人数	360	10
保育予定人数	223	6.19
実績人数	186	5.16

R7年度　4月～9月

令和7年度（4-9月）	合計	平均
申込人数	172	9.5
保育予定人数	124	6.8
実績人数	109	6

館　岡町

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
申込人数	7	8	9	8	5	8	11	13	18	20	16	13	136
保育予定人数	7	6	7	6	6	6	6	7	7	7	6	7	78
実績人数	7	5	7	6	3	6	6	6	5	6	4	7	68

館　岡町　定員8～16人（保育士4名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
申込人数	8	10	11	12	11	13
保育予定人数	8	8	8	8	9	8
実績人数	7	6	7	8	6	8

館　千里

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
申込人数	7	8	17	9	12	13	12	16	9	11	14	14	142
保育予定人数	6	7	7	6	7	7	7	7	7	6	6	7	80
実績人数	4	3	7	6	5	5	5	5	5	5	5	7	62

館　千里　定員6～12人（保育士3名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
申込人数	11	7	9	17	7	14
保育予定人数	7	6	7	7	7	6
実績人数	5	6	6	7	5	6

館　野畑

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
申込人数	4	5	7	6	3	7	12	7	9	5	8	9	82
保育予定人数	4	5	6	6	3	6	6	6	6	5	6	5	65
実績人数	4	4	5	5	3	5	5	4	6	4	6	5	56

館　野畑　定員6～12人（保育士3名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
申込人数	3	10	10	6	8	5
保育予定人数	3	7	6	6	8	5
実績人数	3	7	4	6	7	5

（利用状況　説明資料より抜粋）

(4)今後の課題などについて

自由時間を求めるニーズがあることを担当としても強く感じており、実施機関を増やす検討や他の子育て事業につなぐことが必要であると認識している。財源等の費用面の課題はあるが、より多くの子育て世代に図書館を利用してもらえるよう、一時保育だけでなく、飲食可能なスペースや子どもがゆっくり過ごすことができる場の設置などを引き続き検討していきたいとの意見があった。

また、一時保育をきっかけに、図書館を利用してこなかった層に親子で利用できることを知ってもらい、子ども時代に図書館に親しんだ大人が、自身の子育ての際にも図書館を活用するようになる好循環を期待している。

≪各委員所感≫

（川畑　京子委員長）

生活・福祉常任委員会は令和７年１１月５日に大阪府池田市を訪問し、認知症「予防」発信事業の視察調査を実施した。

池田市からは認知症施策および認知症予防施策の実施状況に関する説明があり、とりわけ主要施策として展開されている脳トレエクササ

イズについては、従来の実施事業者による効果報告のみでは十分とはいえないため、多面的な効果検証を可能とする大阪府認知症予防発信事業が活用されたことが事業の背景として確認された。

池田市では限られた予算の中で、大阪府のＭＣＩリスクを血液検査で評価する「ＭＣＩスクリーニング検査プラス」を活用できないかと、令和６年度の事業の採択を目指し、この事業に着目した点は素晴らしいと感じた。

採択にあたっては様々な基準があり、ご苦労があったと認識したが、脳トレエクササイズが厚生労働省介護予防マニュアルの評価基準に基づいてこれまで実施されてきた点など、ふじみ野市においても認知症予防等の事業効果の検証の在り方について参考としていきたい。

次に、１１月６日、視察２日目は大阪府豊中市において図書館での一時保育について視察調査を実施した。

豊中市では図書館で保育士が子どもを預かることにより、子育て中の大人が本を読んだり、資格試験の勉強をしたり、自由な時間を過ごせる配慮がされていた点が素晴らしかった。

子ども優先の施策ではあるが、子育て世代に向けた大人への新たな視点でのサービスという点が重要であると感じた。

飲食スペースの設置など、小さい子どもを連れて外出する機会をしっかりと捉えた新たな子育て支援の事業であると認識した。

課題と考えられる保育士確保策についても、短時間労働であることから、潜在保育士の掘り起こしなど事業者と協力しながら安定して実施できている点は高評価であった。

今後、ふじみ野市の図書館においても一時保育は重要であると考え参考としていきたい。

（前田広子副委員長）

池田市における認知症施策として、「共生」という観点で認知症理解促進と見守り支え合う地域と認知症支援体制の強化と予防の施策を軸としている。

脳トレエクササイズという大阪府認知症「予防」発信事業を活用して予防施策に重点を置いている。また、認知症サポーター養成講座では中学生にも理解を得るため、授業に取り入れていることは非常に注目すべき点である。そういったことも地域の見守り体制の強化につながる要素であるといえる。

また、どの自治体でも共通課題である、徘徊高齢者の行方不明という事象がある。その施策として、探索システム事業により、委託業者のＧＰＳ位置情報システムサービスが活用されている。

本市でも今後高齢者人口の増加傾向への対応として、認知症の予防施策に重点を置くことが望ましいことである。

豊中市では一時保育の事業が市立図書館で実施されている。視察場所の岡町図書館は乳幼児スペースや食事ができるスペースもあり、一時保育に必要なスペースが確保されている。事業形態は業務委託により、保育士の派遣で実施されている。保護者は保育時間に同図書館内で、ゆっくり読書ができたりと貴重な時間が得られるとの感想もある。図書館が子育て支援として活用されている取組は地域全体の信頼とつながりを育む基盤になっていると感じる。

（金濵高顕委員）

池田市の認知症予防政策について、各市町村が個々に採用する事業を複合的に取り入れ、網羅をするような体制を実践していたことについて参考になった。複合的に取り入れられている事業については、本市でも既に実施をしている事業もいくつかあることから、このような体制づくりについて今後本市でも十分実現可能と感じた。一方、池田市の独自事業に付加するスクリーニング検査については、効果的な面はあるが、あくまで大阪府が財源を負担する府の事業となることから、市が主体となることは難しく、継続性も期待できない部分があり課題と感じた。

豊中市では、キャッチフレーズに示す通り「私の時間」を守ることについて創意工夫をされていた。特に限られた施設配置の中で、子どものスペースと保護者のスペースを明確に区切る一方、気になることがあれば子どもに悟られないよう様子を見ることができるよう配慮がなされていた。利用者の声として「久しぶりに１人の時間でゆっくり図書館を利用できた」「この２時間がとても貴重な時間」などニーズがはっきりと示されていた。併せてこの事業をきっかけに、子どもが図書館へ親しみを感じ、大人になった時に子育ての際にも図書館を活用できる好循環を期待できると感じた。

（坪田敏孝委員）

軽度認知障害（ＭＣＩ）の早期発見には、血液検査が有効と考えられるが、検査費用が数万円を要するのが、ネックとなっている。池田市では、大阪府の認知症「予防」発信事業を通じて、脳トレエクササイズ参加者に対し、無料での血液検査によるＭＣＩリスク値の判定を行い、脳トレがリスク値を下げる上で効果があったと認定した。一方、認知症の予防には、運動、栄養、睡眠といった３要素も関係するとされている。脳トレ参加者におけるこれら３要素の状況について、交さ分析す

ることも有効と考えられる。脳トレへの継続参加者は、この３要素についても、自ら改善に努めるインセンティブは高いと考えられるからである。

豊中市の図書館における一時保育事業については、図書館を所管する教育委員会と、保育を所管する子育て・福祉部門の連携が重要と考えられる。多くの自治体では、0歳児への読み聞かせであるブックスタート事業で、連携がとられるケースが多いが、豊中市でも同様であった。同市では、「子ども読書活動連絡会」という組織があり、子どもと本をつなぐ担い手として、市民、関係部局、団体に所属する実務担当者が、相互の情報交換、課題の共有、人と情報の交流の中でそれぞれの活動に活用できるよう、子ども読書に関する情報共有や意見交換を行っているとのことで、日常的に連携が活用されやすい状態にあると受け取れた。

（山田敏夫委員）

池田市の脳トレエクササイズについて、従来行っていた脳トレエクササイズ事業について本当に効果があるか疑問があることから、異なった視点からの評価をする必要があるため大阪府認知症「予防」発信事業を活用し、ＭＣＩ（軽度認知障害）のリスクを血液から評価できる検査をすることとした。しかし、このＭＣＩ検査についてもその効果についてはさらに継続して検証していく必要があると考えているとのことである。

また、家族を１つの単位として、「一体的に支援を行うプログラム」については、今後ますます重要な取組と考える。

池田市の様々な認知症対策は、多岐にわたり水準の高い取組がなされていることがわかり大変参考になった。

豊中市で行われている一時保育については、図書館内で保育士による子どもの預かりを行い、子育て中の大人が本を読んだり、自学を行ったり自分時間を過ごすサポートを行っているものである。事業開始の経緯は、子育て世代を支援する取組ができないか執行部から要請があったことや、図書館を利用しにくかった層へのサービスの拡充を検討する中で行われ、民間事業者への業務委託で実施されている。

この取組例は、今後のふじみ野市の子育て支援策に対しても示唆を与えるものであり、特に大規模改修工事を予定している上福岡西公民館の在り方について参考になるものと考える。